

現状分析・意見等

社会状況

コロナ禍以前からの社会潮流としての課題の存在
「人口減少」「SDGs」「地球温暖化対策」
「Society5.0」「地方創生」「働き方」

コロナ禍における動きの加速

「グリーンとデジタル」「新事業」「地方への人口流入」
「兼業・副業」「レジリエンス」「原材料の高騰」

成長戦略と分配戦略に基づく「新しい資本主義」の動き

市内産業の状況

人口減少に伴い、事業所数・従業員数は減少しているが、
市内総生産額、製造品出荷額及び粗付加価値額は増加

市内総生産額のうち製造業が約27%と最も大きく、うち約42%が
「電気機械器具製造業」となっている

企業の「経営上の課題」は、直近では「原材料（仕入れ）価格の
上昇」や「売上（受注）不振」が大きいが、中長期的には
「労働力不足」が挙げられている

全国平均、また政令指定都市間での開業率が低い

第2次産業振興プランの成果と課題

海洋、ロジスティクス、プラモデル等の本市の強みの更なる活用強化

連携型の支援体制や人材の確保・育成の更なる推進

中小企業振興条例の基本的施策を活かした振興
（人材の確保・育成、生産性の向上、創業・新規事業の創出）

重点的に振興すべき産業分野（戦略産業）の検討

コロナ禍で縮小・中止となっている事業のリスタート

産業間を横断する課題の位置付け検討（人材・新産業・土地利用等）

目指す姿（将来像Z）の設定やPDCAによる適切な進捗管理

外部関係者からの意見

プラン最終年に目指す姿・適切なPDCAが必要

伸ばしていくべき産業のイメージがあったほうがよい

経済の取組が「社会・経済課題の解決」につながる視点も必要

中小企業を「地域企業」と呼んでほしい。

幸福度のような指標があっても良いのではないかな

プラン策定における視点

産業振興における視点

1 企業の積極的な取り組みを支援する

① 新事業の創出・事業再構築の実施

② 起業・創業の推進

③ 脱炭素の推進

④ デジタル化・DXの推進

⑤ 社会的な課題への対応

⑥ レジリエンス対応

⑦ 基幹産業や重点的に振興すべき
産業分野（戦略産業）の振興

⑧ 連携型の支援体制の充実

2 産業を支える人材を確保・育成する

⑨ 人材育成・リスキリングの推進

⑩ 多様な働き方の推進

3 選ばれる地域となる

⑪ 企業誘致・立地、留置の推進

⑫ まちの賑わいづくり

⑬ 移住・定住の推進

プラン推進における視点

⑭ 「目指す姿」の明示

⑮ PDCAによる適切な進捗管理

第3次産業振興プラン骨子案（たたき台）

※現時点での事務局作成の骨子案（方向性）です。

目指すべき将来像

（仮）時流を捉え、地域資源を活かし、連携しながら
豊かに経済成長を続けるまち

目標

（仮）・市内総生産額の増加
・従業員一人当たりの付加価値額の向上
・ウェルビーイングの実現

政策の視点

1 企業の積極的な
取り組みを支援
する

2 産業を支える
人材を確保・
育成する

3 選ばれる地域
となる

グリーン

デジタル

政策の柱

今後検討

基幹産業の振興

重点的に振興すべき
産業分野（戦略産業）の振興

分野別計画

「商工・物流」「農林水産」「観光・交流」

連携型の支援体制による支援

推進・評価体制,方法

推進・評価体制

「産業活性化懇話会」「中小企業応援会議」等によるPDCA
の実施

推進方法

毎年度、予算等を踏まえた「実行計画（＝戦略）」を新たに
作成し、それに基づき推進